様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７３０１２９

研究課題名（和文）現代アメリカ政治のイデオロギー的分極化と大統領選挙：オバマ政権誕生以後の検証

研究課題名（英文）Ideological Polarization of American Politics and the Presidential Elections of the Obama Era

研究代表者
渡辺　将人（WATANABE, MASAHITO）

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：８０５８８８１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円、（間接経費）　　630,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は現代アメリカ政治のイデオロギー的な分極化に対して，大統領選挙とりわけ予備選挙過程が与える影響を実証的に分析したものである。2008年選挙と2012年選挙を事例に，ティーパーティ運動，リベラル派の選挙過程への影響に焦点を絞って調査を行った。他方，ソーシャルメディアの新技術が戸別訪問等の伝統的なリテール・ポリティクスと結合し，大統領選挙過程で草の根の政治参加を活性化させている変容を，1970 年代以降のテレビ広告依存のメディア中心選挙との対比で検討した。

研究成果の概要（英文）：This study discusses the American Presidential election, with a specific focus on the primary process and how it plays a significant role in increasing the ideological polarization of the U.S. politics. Aside from downside of the election's influence, such as polarization, this study also examines how the current campaigns have also contributed to a broader political participation, unlike the media based campaigns after the 1970s. The advent of using cutting-edge online technologies in the context of traditional ground game approaches, such as canvassing, was a new and more effective strategy for persuasion.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：アウトリーチ　イデオロギー　共和党　大統領選挙　分極化　民主党

１．研究開始当初の背景

2000 年代以降のアメリカ政治は，民主党のリベラル化と共和党の保守化により，政権与党と野党による超党派の合意形成が困難の度合いを深めている。本研究は，現代アメリカにおける共和党と民主党のイデオロギー的分極化を選挙過程から分析したものである。2008 年の大統領選挙以降，ソーシャルメディアが支持者の「オンライン組織」を形成するツールとして機能するなど，保守，リベラル双方の活動家が選挙を経由して政党に参与する過程が変質しつつある。しかし，大統領選挙をめぐるアメリカの主要な先行研究とりわけ予備選挙過程の研究は，インターネットの浸透以前に蓄積されているため，先行研究の更新が重要な課題であった。

２．研究の目的

本研究では大統領選挙がアメリカの分極化に与える影響を，予備選挙過程，アドボカシー活動，選挙戦術の 3 つの側面から検証することを目的とした。2008 年と 2012 年の大統領選挙を事例に分析することで，「1 つのアメリカ」による統合を訴えたオバマ政権の誕生がどの程度分極化に歯止めをかけたのか，あるいは進行させたのかを実証的に明らかにすることを目指した。

３．研究の方法

本研究は以下の 3 段階で実施された。第 1 段階として，アメリカのイデオロギー的分極化と大統領選挙の関係性を明らかにする基礎的な文献調査である。第 2 段階は政党組織と選挙陣営のほか，保守系，リベラル系の活動家に対する現地調査である。2012 年大統領選挙ではアイオワ党員集会から始動した予備選挙過程と共和党・民主党の全国党大会で現地調査を実行したほか，サンベルト地域，中西部などに的を絞ったティーパーティ運動，ヒスパニック系有権者の選挙参加過程も調査した。第 3 段階は，現地調査の成果を先行研究に位置付けて分析し，2008 年以前の大統領選挙と 2012 年の最新の大統領選挙を比較することで，近年のイデオロギー的分極化に見られる傾向を浮き彫りにする作業である。文献の基礎的調査では，公開文献の収集のほか，政党や利益団体が保存する過去の非公開資料の収集にも努め，現地調査では聞き取りによる非参与観察の質的調査を大統領選挙の予備選挙期，本選挙期，選挙後の 3 段階に分けて実施した。

４．研究成果

（1）争点志向の活動家が参入しやすい予備選挙過程，とりわけメディア報道に多大な影響を与えるアイオワ党員集会等の緒戦，また僅差で拮抗する激戦州では，イデオロギー的に相当に偏りのある活動家の主要関心事にも候補者は耳を傾けるインセンティブが存在し，人口比率上の実数では少数であっても活動家の影響は増幅される。人種・エスニック集団別の集票活動もアイデンティティ政治の増幅と無縁ではなく，実際には「1 つのアメリカ」を遠ざける原因を政党や候補者側も選挙キャンペーンによって再生産している。また，政党が活動家包摂に努める動きが，結果として全体の分極化を促進した面も否定できない。保守派のティーパーティ運動は 2010 年以降，共和党の基礎票を活性化したが，他方で運動の源流がリバタリアン的色彩とも無縁ではない反共和党主流派運動であるだけに，党内に穏健派と保守系活動家の対立を持ち込み，結果として政党の保守化促進と分極化幇助に部分的に繋がったことを，中西部と南西部の選挙区を中心に活動家と政党関係者への聞き取り調査によって明らかにした。

（2）分極化要因を選挙過程に探る一方で，近年の選挙過程が草の根での市民の政治参加を活性化している変容も本研究では明らかにした。第 1 に，オンラインの新技術の進歩による変化である。2000 年代に新たな選

挙運動のツールとして定着したインターネットは，アウトリーチの現場にも積極的に取り込まれた。動画配信によってメディア報道（無料広告）やスポット CM（有料メディア）を経ずに広範に選挙民に一度にメッセージを伝えられるようになっただけではなく，絞り込まれた属性の選挙民にアクセスすることも可能となった。デジタルやオンライン技術，さらにはビッグ・データの進歩がアウトリーチを変えている最新の選挙事情については一次情報が未だ十分とは言えないため，陣営関係者への聞き取りに基づく記述に努めることで現状理解への貢献を目指した。

第２に，戸別訪問に象徴される「地上戦」と新技術の融合による草の根の選挙参加の活性化である。例えば，リベラル側ではオバマ支持者の若年層の運動，保守側ではティーパーティ運動に象徴される地理的に遠隔地を横断する同時発生的な運動が，ソーシャルメディアの影響で生じるようになった。政党と候補者陣営は，こうした運動のエネルギーと活動家のネットワークを集票基盤として取り込むことに力を注いでいる。

第３に，主として民主党側における支持者連合の再強化の営みである。オバマ陣営は２回の大統領選挙で，マイノリティ向けの伝統的なアウトリーチを行いながらも，人種を強調する選挙戦を回避し，2012 年再選選挙でも「脱人種」路線を踏襲した。換言すれば，人種向けのアウトリーチと「脱人種」路線の併存である。マイノリティの自尊心を維持しつつ「１つのアメリカ」の実現を放棄しない姿勢が模索された。その文脈において，大統領選挙のアジェンダ設定においても，様々な選挙民集団向けの戦略を統一する統合型アウトリーチが顕在化した。従来のアウトリーチでは集団別に争点や政策選好に対応していたが， 2012 年選挙における民主党の支持者連合の形成では，人種マイノリティ，女性，高学歴専門職，ブルーカラー労働者の「連合」を束ねる統合基盤を醸成した。しかし，連合形成に効果的な共通アジェンダの数は限られていることや，サブグループの単一争点への執着を薄めることでは政党のイデオロギー的分極化を抑制する顕著な効果が見られないこと，また，争点志向の活動家の選挙参加の意欲を削ぎかねないなど，活動家の草の根参加の活性化とイデオロギー的分極化の抑制は両立困難なジレンマを抱えている。

これらの知見は単著１冊を含む図書，査読付２本を含む諸論文，国際学会を含む学会発表で公表しているところであるが，さらに分析を深めた上で，国内外で成果発表を継続的に進める方針である。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

1. 渡辺将人,「バラク・オバマと人種をめぐる選挙戦略の変容：「脱人種」とマイノリティ政治の併存」『アメリカ研究』48 号 2014 年３月 77-98. 査読無

2. 渡辺将人,「オバマ政権固有の「迷走」要因」『季刊アラブ』148 号　2014 年３月 5-7. 査読無

3. 渡辺将人,「アメリカの政権交代と外交：内政の視点から」『政権交代に際しての外交の持続性：政権交代と外交の安定性研究報告書・提言』公益財団法人世界平和研究所・平成 24 年度外務省 国際問題調査研究・提言事業「政権交代に際しての外交の持続性」2013 年３月 29-41. 査読無

4. 渡辺将人,「左派言論人・コラムニストの大統領選挙をめぐる評価（２）」50-53.,「共和党全国党大会，民主党全国党大会」77-62.,「左派言論人・コラムニストの大統領選挙をめぐる評価（３）」138-141.,「リベラル派はこの選挙の結果をどう評価したか？」177-180.『政策研究報告書：アメリカ大統領選挙 UPDATE II』現在アメリカプロジェク

ト・久保文明（編），発行者：公益財団法人東京財団, 2013 年 2 月　査読無
5. 渡辺将人,「ティーパーティ票とポール派」12-14 頁,「2012 年共和党アイオワ党員集会, ニューハンプシャー予備選」46-48.,「アイオワ・ニューハンプシャー現地報告」59-62.,「ミット・ロムニーの研究」110-113.,「左派減論人・コラムニストの大統領選挙をめぐる評価」123-126.,『政策研究報告書：アメリカ大統領選挙 UPDATE』現在アメリカプロジェクト・久保文明(編)公益財団法人東京財団 2012 年 6 月 査読無
6. 渡辺将人,「アメリカ大統領選挙における新技術と集票過程 ：アイオワ党員集会と 2008 年オバマ陣営の事例を中心に」『メディア・コミュニケーション研究』2012 年 63 号 141-166. 査読有
7. 渡辺将人・前嶋和弘,「アメリカの選挙における地域・市民との連携の深化：ソーシャルメディアとアウトリーチ」『文教大学湘南総合研究所紀要』第 16 号 2012 年 2 月 93-106. 査読有

〔学会発表〕（計 10 件）
１. 渡辺将人,「オバマ政権の評価と 2012 年大統領選挙: イデオロギー的分極化のなかで」アメリカ政治研究会・東京財団・東京大学科研プロジェクト基盤(B)「米国政党再編成とイデオロギー的分極化及び超党派主義」共催セミナーにおける討論者，東京財団 2012 年 12 月 6 日.
2. 渡辺将人,「アメリカはどこへ向かうか？ 2012 年大統領選挙を終えて」第 54 回東京財団フォーラム アメリカ大統領選シリーズ第４回にて報告 東京財団 2012 年 11 月 12 日
3. 渡辺将人,「2012 年選挙とアウトリーチ戦略：党大会戦略を中心に」早稲田大学日米研究機構グループ A 研究会にて報告, 早稲田大学, 2012 年 10 月 29 日.
4. 渡辺将人,「アメリカ大統領選挙を中心とした国内政治」国会図書館調査及び立法考査局「日米関係をめぐる動向と展望」研究会にて報告，国会図書館 2012 年 7 月 19 日.
5. 渡辺将人,「米国大統領選挙と宗教要因」同志社大学一神教学際研究センター「一神教と国際政治：米大統領選挙を中心に」にて報告，同志社大学 2012 年 7 月 22 日.
6. 渡辺将人,「2012 年アメリカ大統領選挙の行方」同志社大学アメリカ研究所部門研究３「東アジアの安全保障と日米中関係の変容」研究会にて報告，同志社大学 2012年3月27日.
7. Masahito Watanabe, "Marrying the New Technology to the Old Politics: A Case Study of the Obama Campaign in 2008" Western Political Science Association, 2012 WPSA Program, Section 10 - Media and Political Communications, Portland, March 22, 2012.
8. 渡辺将人,「オバマの内政と支持層：大統領選挙に向けて」アメリカ学会第 45 回年次大会部会 D「中間選挙後の内政と外交」東京大学 2011 年 6 月 5 日.
9. Masahito Watanabe, “An Examination on the U.S. Presidential Election in 2012”, ”The 6th Japan-Taiwan Strategic Dialogue for the New Era, Ocean Policy Research Foundation, Session 4 "Viewpoint from an International Surroundings’ Perspective: The United States and Other Security Concerns", Hakone, Japan, March 10, 2012.
10.「オバマ時代のグラスルーツ政治：アイオワ党員集会を中心に」北海道大学政治研究会, 北海道大学, 20011 年 4 月 22 日.

〔図書〕（計 6 件）
1. 渡辺将人,「選挙アウトリーチと2012 年オバマ再選選挙」 吉野孝・前嶋和弘 編『オバマ後のアメリカ政治：2012年大統領選挙と分断された政治の行方』東信堂2014年 63-96. 総236頁
2. 久保文明，中山俊宏，渡辺将人,『オバマ・アメリカ･世界』NTT 出版 2012 年　総 278

頁
3. 渡辺将人,「バラク・オバマ，ミット・ロムニー，ヒラリー・クリントン，ミシェル・バックマン，ティーパーティ，民主党指導者会議，第三の道，ニューデモクラット」執筆，荒このみ，岡田恭男，亀井俊介，久保文明，須藤功，阿部斉，金関寿夫， 斎藤眞監修『新版 アメリカを知る事典』平凡社 2012 年 127, 186, 347, 384, 635, 455, 477, 707. 総 808 頁
4. 渡辺将人「グラスルーツ・ポリティックス：アイオワ州アウトリーチ戦略とティーパーティ運動」吉野孝・前嶋和弘編『オバマ政権と過渡期のアメリカ社会：選挙，政党，制度，メディア，対外援助』東信堂 2012 年, 59-82. 総 211 頁
5. 渡辺将人『分裂するアメリカ』幻冬舎 総 278 頁 2012 年
6. 渡辺将人「ティーパーティと分裂要因：ポール派の動向を中心に」久保文明編『ティーパーティ運動の研究：アメリカ保守主義の変容』NTT 出版 2012 年, 38-56. 総 181 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

渡辺　将人（MASAHITO WATANABE）
北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授
研究者番号：80588814

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし